

第3学年1組 国語科学習指導案

指導者 知念 清志

1. 日時 平成27年6月10日(水) 5校時

2. 場所 3年1組教室

3. 単元名 ファンタジーの世界に飛びこもう
～もうすぐ雨に・その他～

4. 単元の目標

○物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くことができる。

指導事項「読むこと」

オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

言語活動

友達のととの共通点や違いに気づくため、叙述を基に考えたことを話し合う。

5. 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・物語の好きなところや心がひかれるところを発表しようとしている。 ・一人一人の考えに違いがあることに気づこうとしている。	・物語を好きなところや心がひかれるところに着目して読んでいる。(オ) ・物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。(オ)	・漢字と仮名とでは、音節との関係や書き表す語の種類など、文字としての性質や役割が異なることを理解し、「漢字仮名交じりの文」という日本語の表記の仕方に気を付けて、文や文章を読んでいる。イ(イ)

6. 児童の実態(32名)

(1) 読むことについて

3年生の国語科では物語文『きつつきの商売』、交流タイムでは2学年で学習した物語などの文章をいくつか読んできた。多くの児童は場面の様子について登場人物の行動を中心に想像を広げながら物語を楽しんで読むことができている。児童への「国語のアンケート」では「文章の大事なところを読み取れますか」「登場人物の気持ちなどを読み取れますか」の項目のどちらも3分の2の児童が「よくできる」「できる」を選んでいる。児童の多くは物語を理解して読み取れていると感じていることが分かる。その一方で教師として児童の実態を考えたとき、今の段階では物語を感覚的にとらえている児童が多く、本文の言葉を基に自分の考えをまとめられる児童は限られている。『きつつきの商売』の学習では、場面の様子に合った音読の工夫ができていても、工夫をしている理由について考えさせると「なんとなく」「～そうだから」と感覚的な児童が見受けられた。各場面の様子や場面と場面の違いを本文の言葉と関係づけながら学習を進めることで、本文を手がかりに自分の考えた工夫を説明できるように授業で取り組んできた。物語の学習では、登場人物の性格や境遇、状況を把握し、場面や情景の移り変わりとともに変化する気持ちについて叙述を基に捉えて

いき、自分の考えをまとめられるようになることが全体的な課題といえる。

(2)交流について

『夏と冬どちらがすき』というテーマでは友達が発言に「〇〇さんと似ていて～」「〇〇さんに付け足しで～」「〇〇さんと違って～」などの話型で繋げたり、「前に～をしたことがあったから」などと自分の経験と結びつけたりして、ほぼ全員の児童が自分の立場とその理由を全体の話し合いで発言することができた。一方で『みんながよく使う公園にゴミ箱をおくべきか』というテーマでは、ペアで話し合わせたり自分の立場を表明させたりすると、ほぼ全員が自分の意見を表すことができていたが、全体の話し合いのときに発言する児童は半数くらいになった。このときの全体での話し合いでは「〇〇さんに質問で～」や「さっきの話に戻るけど～」など発言をつなぐスキルがついている話型も見受けられた。研究の一環で行った「国語のアンケート」の「みんなの前で自分の考えを話すことはできますか」で「よくできる」「できる」と答えた児童が約半数だったことは、後者の話題の全体での話し合いと実態が一致する。また「自分の考えを分かりやすくつたえられますか」という項目でも「よくできる」「できる」と答えた児童が約半数だった。つまり、自分の考えを分かりやすく伝えられるか不安に思っているので、みんなの前で発言することに対して自信を持っていないということが、アンケートにも交流したときにも現れていたと分かる。また、アンケートでは「友達の言いたいことを理解できますか」に8割の児童が「よくできる」「できる」と答えているが、「自分の考えと比べながら聞くことはできますか」では約半数となっている。つまり、友達の言っていることを聞いているし理解していると多くの児童は思っているが、そもそも自分の考えに自信を持っていないので、友達の考えと自分の考えを比べられていると思える児童は減ってしまうのだろう。

こうした実態から交流においてはまず、自分の考えをみんなにわかりやすく伝えられると児童が思えるようになることが必要だと考えている。交流とは一人一人が自分の考えを分かりやすく伝えようと取り組み、自信をつけていく場であると意識させていくことも必要になる。もし自分や友達が考えをうまく伝わらなかったとしても、周りの聞き方や友達を受け入れる態度が次への挑戦につながることも伝えていく。そのうえで、交流を通して互いの考えや感じ方に違いがあることに気づいていくことが課題といえる。

(3)抽出児童について

- A児 テーマや教材の本文を踏まえて自分の考えをもてる。授業や交流では必ず発言を1度はする。発言内容もわかりやすくまとめることができる。しかし、声が小さく自信なさ気に話す。友達に質問したり話をつないだりすることはまだない。
- B児 テーマや教材に対して個性的な着眼点で考えるところがある。しかし本題からずれることはない。自分の考えを発言したい気持ちが強く、ときに友達の意見を否定することがある。一方で友達に話題をふるなど話し合いを展開することができる。
- C児 自分の考えをまとめようとする意欲はあり、自分から質問をしてくる。内容を整理して例を挙げて支援することで課題に取り組める。発言にも前向きで、自分なりに考えが定まっていると自信をもっている様子が見られる。

7. テーマについて

(1) テーマのとらえ (中学年ブロックテーマ)

分りやすく伝え合い、比べることで、自分の考えを確かにする。

中学年ブロックでは、研究テーマである「伝え合いを通して 考えを深める子を育てる 授業づくり」を

受けて、以上のようなブロックテーマを設けた。低学年では、「相手を見て話す」「はっきりとした声で話す」「話を最後まで聞く」といった基本的な話し方や聞き方を身に付けることに重点を置き、自分の思いを友達に楽しんで伝える子を目指して活動を行ってきた。そこで中学年では、低学年で築いてきた話し方、聞き方を生かし、自分の思いを楽しく伝えることから、より相手意識をもって伝え合いをする姿を目指すことにした。「分かりやすく伝え合い」の具体的な姿は、結論を先に言ったり、理由に例に入れたりして、相手に分かりやすく伝えることである。「比べること」は、友達の意見を聞き、自分の考えと共通していることは何か、相違点は何かを考えて聞くことである。「考えを確かにする」とは、その比較を通して自分の考えに自信をもったり、見直したりすることと捉えている。

(2) テーマにせまる手立て

〈日常活動の取り組み〉

I. 「なぜ」をキーワードにする

ねらい 自分の気持ちや行動を言葉で相手に伝える意識を高める

学習場面に限らず生活の様々な場面で、相手意識をもって自分の気持ちや考え、行動について言葉で話すことで相手に理解してもらうことの重要性や、相手の意見にも耳を傾けることの必要性を感じられるよう取り組んできた。学習や学級の活動でも「なぜ」必要なのかを児童に考えさせたいので、教師の考えを伝えたり教えたりする姿をみせてきた。

II. 国語辞典を活用して言葉の説明をする活動

ねらい 語彙を増やすとともに、説明する力をつける

教科書の「言葉のたから箱」に掲載されている表現を国語辞典で意味を調べ、辞典に載っている説明や例文を参考に、自分の言葉で説明する。聞き手は説明を聞いてからその言葉を使った例文を考え、その用例があっているか発表者と考える。

III. 交流タイム

話型の揭示

ねらい 自分たちで話し合いを進めることで交流の良さを実感する

これまでの交流のなかから子どもたちの言葉を拾って、全体での交流に有用な話型として揭示する。話し合いを進めるために活用できるようにする。

既読の物語を読んで交流

ねらい 叙述を基に自分の感じたことや考えたことを分かりやすく伝える

2年生の時に読んでいる物語を使い、話し合いのテーマに対して叙述を基に自分の考えをまとめる。また、交流することで叙述を基に考えたり話し合ったりすることの経験を積む。

〈本単元での取り組み〉

本単元では、叙述を基にして自分の考えをもって交流し、友達との違いに気づくために次のような手立てを考えた。

I. ファンタジーへの興味を引き立てる工夫

ねらい 自分から物語を読む

本単元で使用するファンタジー作品を他社教科書から選ぶ。教科書の作品は文章量と内容的にも児童が取り組むのに適していると考え。選んだ作品は、『つり橋わたれ』（学校図書 3年上 平成 27年 2月発行）、『白い花びら』（教育出版 3年上 平成 27年 1月発行）、『海をかつとばせ』（光村 平成 24年 2月発行）、『ゆうすげ村の小さな旅館』（東京書籍 平成 27年 2月発行）である。この中から 1次の導入で 1作品読み、ファンタジーを読む楽しさに触れる。2次で『もうすぐ雨に』を自分で読み進める学習を行い、3次では 4作品の中から 1作品選んで自分で読む。

II. 教材を読み取るための工夫

ねらい 叙述を基に自分の考えをもつ

物語全体を見通しやすいうように教材文に通し番号をふり、A3用紙 2枚にまとめる。本文のどこから自分の考えを話しているのか、友達の考えはどの文を基にしているのか、交流でも活用できるようにする。

物語を読んでいく視点としてファンタジー 1作品を読んだ感想から共通点をみんなで考え、「おもしろい」「すきだな」「いいな」を心がひかれるポイントとした。教材文を読み、見つけたポイントのところに付箋を貼って本文をもとに読む手立てとする。また、見つけたポイントについてワークシートに理由を書いて自分の考えをまとめられるようにする。

III. 交流を行うにあたって

グループ活動

ねらい 児童一人一人の発言の機会を作り、全体交流での発言に自信をもつ

グループは児童が発表しようとしている考えを事前に把握して、その内容と児童の発言力を踏まえて教師が意図的にグルーピングする。自分の考えをグループで発言することで友達に自分の考えを伝える機会を作る。また、グループ内で友達の考えに触れることで交流のイメージをもち、全体交流で発言する意欲を高める。

ワークシートの工夫

ねらい 自信をもって自分の考えを発言し、友達の考えと比べる

交流を行うにあたり、自分の考えを前もってワークシートにまとめる。支援が必要な児童には書き方の例を示して、叙述と自分の考えを書き込めるようにする。また、交流後のふりかえりでは、ワークシートに視点を示して友達の考えと比べたことを書けるようにする。

8. 単元設定について

(1) 単元設定の理由

『もうすぐ雨に』は平成 27年度の教科書改訂で「読むこと」オの評価単元教材として書き下ろされた物語である。主人公の「ぼく」に起こる不思議な出来事により物語が展開していく。このことから、場面の移り変わりや主人公の気持ちの変化について叙述を基に自分の考えをまとめることができる教材といえる。また、想像力が豊かで物語を楽しむことができる時期にファンタジーを教材にすることで、自分の感じたことや友達の感じたことに関心をもって交流することができる考えた。

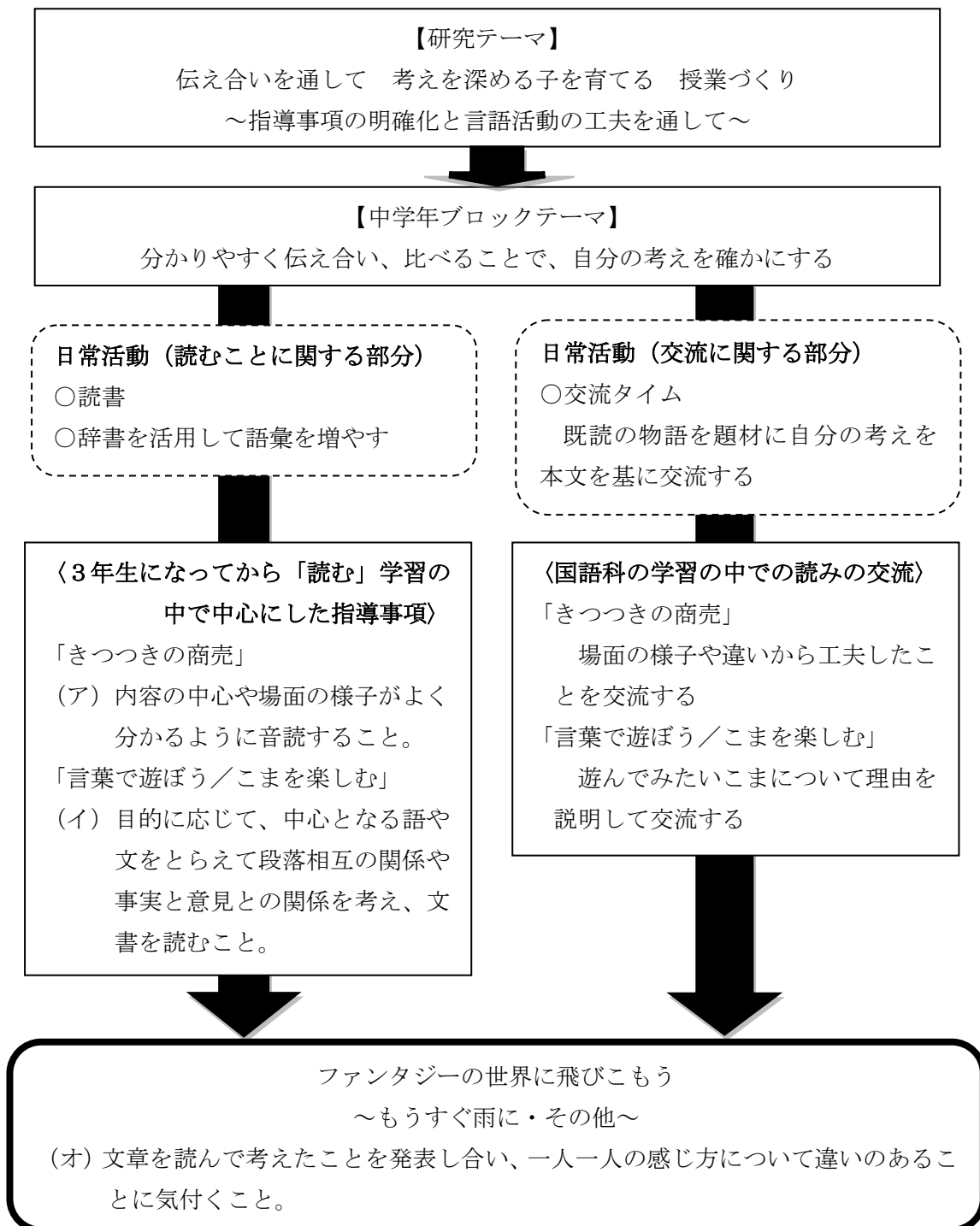
今回の指導案では、叙述を基に本文を読み進めた学習を土台にして、友達との考えの違いや友達の考えから自分の考えの変化に気づける授業を提案したいと考えた。子どもたちは学習を通して、友達の感じ方を知ること自体に楽しみを見出したり、物語の楽しみ方が人それぞれでよいことに気づいたりすることができると考えている。

(2) 単元を通してつきたい力

児童の実態でも書いたように児童の約半数は、自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の考えと比べたりすることができないと感じている。自分の考えを分かりやすく伝えるためにも、友達の考えと比べるためにも、まず自分の考えに自信をもつことが必要だと考えている。自分の考えに自信を持つためには、「なぜ自分がそう考えるのか」を自分でもわかるようにならなければならない。これは日々の活動や学習の積み重ねによってつけていく力といえる。その積み重ねの一つとして本単元では、物語の叙述を基にして自分の考えに自信をもてる力をつけたいと考えている。

本単元では叙述を基に自分の考えや友達の考えを交流することで、自分の考えを分かりやすく伝えられたと感じたり、友達の考えと比べることができたと感じたりして欲しい。そして交流を通してさらに自分の考えに自信をもてるようになることを期待している。

9. 単元関連図



10. 学習指導計画と評価計画（全8時間）

次	時	評価規準と ☆評価方法	○学習活動 ・予想される児童の反応	・指導上の留意点
第一次	1	物語の好きなところや心がひかれるところに着目している【読オ】 ☆発言・ノート	<p>○单元名を知り、学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファンタジーを読んで自分の考えを言おう ・友達の考えを聞いて違いに気づこう <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ファンタジーってどう読んだらいいんだろう</p> <p>○『白い花びら』を聞いて感想を出し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・馬の形の岩が馬になったところがおもしろい ・女の子が動物と話せるのがいいな ・女の子と馬に乗って競争するところがすきだな <p>○感想からファンタジーを読む視点をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不思議なことがおこるところに感想をもっている ・不思議なところが「おもしろい」 ・不思議なところが「好き」 ・不思議なところが「いいな」 <p>○本時の振り返りと次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心がひかれるポイントを使ってファンタジーを読めば自分の考えがもてそう ・友達の考えを聞くのは楽しそうだし、違いに気づきたい ・ファンタジーを読む学習と交流の仕方を勉強しよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファンタジーを読んでいくことを知らせる。 ・単元の最後には自分で物語を選んで友達と交流することを意識させる。 <ul style="list-style-type: none"> ・紹介する物語は他社教科書の教材で、3次で自分が選んで読むものの一つを使う。 ・ファンタジーの読み聞かせから自由に感想を言わせる。 ・感想の共通点を引き出し、心がひかれるポイントを視点として定める。 ・心がひかれるポイントは「好きだな」「おもしろいな」「いいな」の3つの視点を示す。
第二次	2	○日本語の表記の仕方に気を付けて文や文章を読んでいる【言イ(イ)】 ☆発言・ノート	<p>○本時の学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなでファンタジーを読む学習をして、一人でも読めるようになろう ・『もうすぐ雨に』で自分の考えをもてるようにしましょう <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">『もうすぐ雨に』を一人で読んで考えをもてるようになろう</p> <p>○範読を聞いてあらすじをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かえるが「ぼく」のへやのまどから出られない ・助けようとしたら鈴の音とともになくなった ・トラノスケに「ねこのご用がたんあるのさ」と言い返される ・トラノスケが「もうすぐ雨になる」と急いでいる ・からすが「もうすぐ雨になる」と子どもの食べ物を集めている ・つばめもいそがしそうに虫取りをしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と考えを交流するために、自分の考えをもてるようになることの大切さを意識させる。 ・物語を選んで自分で読めるようになるために一つの物語を全員で学ぶことを伝える。 <ul style="list-style-type: none"> ・挿絵を活用して視覚的に物語を整理していく。 ・「ぼく」に起こった不思議な出来事をとらえながら、心がひかれるポイントを示唆しておく。

		<ul style="list-style-type: none"> ・学校で動物の音が聞こえること実験する ・みどりがめが「もうすぐ雨になる」といった ・小屋ではうさぎやにわとりが「もうすぐ雨に」と言っている ・雨が降るのか、動物たちの「すぐ」ってどのくらいか考えていたら教室で「もうすぐ雨に」といってしまった ・みんなでまどから大きな黒い雲にきづいた ・帰り道に雨がふりだし、鈴の音とともににぎやかな歌声が聞こえてきた ・かえるたちの様子を思い浮かべた ・雨がひどくなると音も歌もきえていった ・雨宿りしたときにつばめはなにも言わない ・トラノスケに質問しても答えがない ・雨がやみ家でトラノスケを拭いてあげる ・トラノスケは口をきかなかったけど、なんて言いたいのか、よく、分かった <p>○意味調べをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あんぐり ・のき下 等 <p>○本時の振り返りと次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あらすじや言葉の意味も分かったから一人でも読めそう ・『もうすぐ雨に』で自分の考えをもてそう 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童から分からない言葉を聞き出すだけでなく、調べさせたい言葉をピックアップしておく。
3	<p>物語の好きなところや心がひかれるところに着目して読んでいる</p> <p>【読オ】</p> <p>☆ワークシート</p>	<p>○本時の学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『もうすぐ雨に』を一人読みして、心がひかれるポイントを見つけよう ・自分の考えが言えるようになろう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>心がひかれるポイントを本文から探して自分の考えをもとう</p> </div> <p>○一人読みをして心ひかれたところを本文から見つけ、付箋を貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24 動物の言葉が分かればいいのになあ ・36 他 チリン ・82 じっけん、じっけん ・116 ほんとうだあ ・126 かえるたちを、ぼくは心に思い浮かべた ・151 トラノスケがなんて言いたいのか、ぼくには、よく、分かったよ <p>○ワークシートに本文を書き出し、自分の考えを書き足す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・視点をもって読み、自分の考えをもつことで友達と交流できるようになることを話す。 ・心がひかれるポイントを確認する。 ・教材文に通し番号をつけたプリントを学習に使用する。 ・物語の心がひかれるポイントに付箋を貼って自分の考えを探す手立てにする。 ・心がひかれるポイントの3つの視点を3色の付箋で色分けする。赤「好きだな」、黄「おもしろい」、青「いいな」。 ・一人読みの時間を十分にとり、心がひかれるポイントを見つけられるようにする。 ・一人読みが難しい児童には読み聞かせや感

		<ul style="list-style-type: none"> ・24 私も動物が好きだから動物の言葉が分かるようになるところが<u>いいな</u>と思った ・36 <u>他</u>チリンがなると動物の声が聞こえてくるのが<u>おもしろい</u> ・82 わくわくした感じでいろんな動物の声をきこうしているのが<u>好きだ</u> ・116 晴れていたのに動物たちが言ったように雨になるところが<u>好き</u> ・126 かえるたちが雨の中ぴよんぴよんしていることを考えると<u>おもしろい</u> ・151 チリンがなくても言いたいことが分かるのが<u>いいな</u> <p>○本時の振り返りと次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「もうすぐ雨に」の心がひかれるポイントをたくさんみつけることができた ・心がひかれるポイントから自分の考えをもつことがきた 	<p>想を引き出して支援する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの書き方を全体に明示して確認する。 ・ワークシートに書いたことをいかして交流するために、選んだ箇所のページと本文の書き出し、自分の考えを書き込むように指導する。 ・付箋を貼ったなかから伝えたい順に一カ所ずつワークシートに記入する。
4	<p>○物語の好きなところや心がひかれるところが着目して読んでいる</p> <p>【読オ】</p> <p>☆ワークシート</p>	<p>○本時の学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表できるようにしよう ・選んだ心がひかれるポイントを友達に分かりやすく話せるように考えよう <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>心がひかれるポイントを発表できるようになろう</p> </div> <p>○ワークシートに書いたことから友達に伝えたいことを選び、発表できるように考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・※※行のところを発表しよう ・友達に分かりやすく説明できるように理由や自分の経験をいれよう <p>○ワークシートを見ないで自分の考えを伝えられるように練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はっきりとゆっくり聞きやすく話そう ・相手の目を見て、ワークシートを示しながら話そう <p>○本時の振り返りと次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表することができそう ・交流で友達の考えを聞くのが楽しみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・各児童がワークシートに書いていることに教師がコメントして発表することに自信をもてるようにする。 ・交流では聞き手の顔や目を見て話すことの大切さを伝え、自分が伝えたいところを本文で示しながらワークシートを見ないで話せるように取り組ませる。 ・支援の必要な児童には教師が練習相手になる。
5	◎ 物語を読	○本時の学習を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>本時の目標：自分の考えを発表し、友達一人一人の考えに違いがあることに気づく。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの活動と全体での活動で自信を

<p>んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている【読オ】 ☆発言・ワークシート</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを発表しよう ・友達の心がひかれるポイントを聞いて考えを知ろう 	<p>もって発言や交流が行えるよう励ます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習してきたことをいかして本文を基に交流することを確認する。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>心がひかれるポイントを交流して一人一人の考えを知ろう</p> </div>	
	<p>○グループで交流し、友達の考えのところにワークシートに付箋を貼る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・○○さんの心がひかれるポイントは私も付箋を貼っているけど色が違う ・△△さんの心がひかれるポイントには付箋を貼ってなかったけど僕もそう思う <p>○全体で交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私は 24 のところで動物の言葉がわかると気持ちもわかるからいいなと思いました ・○○さんの考えに似ていて私は 38 のところから動物の言葉がわかるといいなと思いました ・私は 36 のチリンという鈴の音が聞こえて、動物の言葉がわかるようになったがおもしろいと思いました ・25 のかえるのまばたきがチリンの始まりなのがおもしろい ・私も△△さんと同じで 25 からチリンが始まるのおもしろいと思います ・78-80 でかえるのお礼で動物の声が聞こえるようになったのかなというところが好きです ・82 でいろんな動物の声を聞きに行くのがおもしろい ・108 で動物の言っていることを口に出してしまったところがおもしろい ・116 で動物たちが言っていた通り本当に雨がふってきたのが好き ・私は△△さんと違って 116 のところで動物たちが雨をふることを知っていていいなと思いました ・126 のかえるたちが雨をよるこんでいるところが好き ・150-152 ではチリンと聞こえないのに言いたいことわかるのがいいな ・151 で「ようく」ってやさしくいうところが好き ・○○さんの考えを聞いて 151 の「ようく」って言い方がいいなと思うようになりました 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が発表しようとしていることを踏まえて教師指定のグループで交流する。 ・ワークシートに頼らず、本文を示しながら友達に考えを発表するよう促す。 ・グループでの発表後、ワークシートに友達の考えのもとになった文に緑の付箋を貼る。 ・全体での交流もワークシートに頼らず考えを発表するために、実物投影機などで本文を確認できるようにする。 ・全体交流の内容を板書に残し、振り返りにいかせるようにする。 ・児童の考えを教師が事前に把握しておき、発言できていない児童に機会を作ったり、児童同士の考えをつなげる発問をしたりする。 <div data-bbox="986 1352 1453 1554" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本時の視点 児童が叙述を基に自分の考えを言っているか。交流を通して友達の考えとの違いに気付けたか。</p> </div> <div data-bbox="986 1630 1453 2063" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本時で抽出児童に期待する姿 〈A 児〉自信をもって発言する。友達の考えと関連付けて発言する。 〈B 児〉友達の考えを聞こうとしている。話し合いに友達を巻き込んでいる。 〈C 児〉叙述を基に自分の考えを発言している。友達の考えにうなずいている。</p> </div>

		<ul style="list-style-type: none"> ・150-152でどんなことばを言ったのか考えていたらおもしろい ・私は24で言葉がわかるから気持ちが変わると思っていたけど、△△さんの考えを聞いて150-152の言葉が聞こえなくても気持ちが変わるということを感じました <p>○交流した振り返りを書き、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんの考えを聞いて※※のところもおもしろいと思うようになった ・△△さんが私と違って※※のところで～～と考えていることがわかった ・※※のところをおもしろいと思っていたけど、◇◇さんの考えを聞いて、好きだなと思うようになった <p>○次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えに自信をもって発言することができた ・友達と考えを交流して友達の考えとの違いに気づいた ・次は自分で物語を選んで読んで読んだことを交流するのが楽しみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流の振り返りでは友達との考えの違いなどについて書けるような用紙を用意する。 ・ふりかえり用紙には <ul style="list-style-type: none"> ○友達と同じところや違うところを見つける ○感じ方が変わったところはあったか ○新しく発見したところはあったかを視点として与える。 ・上記の視点を掲示する。
第三次	6	<p>物語の好きなところや心がひかれるところを見つけようとしている</p> <p>【関】</p> <p>☆発言・ワークシート</p> <p>○本時の学習を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で選んだ物語でも『もうすぐ雨に』で学習したことができるようにしよう ・どの物語を読んで交流しようか決めよう <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">友達と交流するファンタジー作品を選ぼう</p> <p>○ファンタジー作品</p> <p>『つり橋わたれ』</p> <p>『海をかつとばせ』</p> <p>『ゆうすげ村の小さな旅館』を読む。</p> <p>○4作品の中から交流したい作品を選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『つり橋わたれ』のやまびこに会うのがおもしろい ・『海をかつとばせ』でホームランを打てたところがすき ・『ゆうすげ村の小さな旅館』ではうさぎと会話をしている <p>○本時の振り返りと次時の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『〇〇』を読んで心がひかれるポイントを使って自分の考えまとめよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・『もうすぐ雨に』での学習をいかして取り組めるように活動の見通しをもたせる。 ・文章の量や内容を考慮して児童が選ぶ物語には他社教科書の教材を使用する。 <p>・4つの作品は</p> <p>『つり橋わたれ』 学校図書3年上 平成27年2月発行</p> <p>『白い花びら』 教育出版3年上 平成27年1月発行</p> <p>『海をかつとばせ』 光村 平成24年2月発行</p> <p>『ゆうすげ村の小さな旅館』 東京書籍 平成27年2月発行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『白い花びら』は単元1時間目に読み聞かされているので省略する。

		・友達と交流するのが楽しみだ	
7	○物語の好きなところや心がひかれるところを発表しようとしている【関】 物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている【読オ】 ☆発言・ワークシート	○本時の学習を確認する。 ・『もうすぐ雨に』でやったように心がひかれるポイントから自分の考えを発表できるようにしよう ・友達に分かりやすく話せるように考えよう 心ひかれたポイントを本文から見つけて発表できるようになろう ○一人読みをして心がひかれたところを本文から見つける。 ・※※行はおもしろい（いいな、すきだな） ・たくさん心がひかれるポイントを見つけよう ○ワークシートに本文を書き出し、友達に伝えられるように考えをまとめる。 ・※※行のところを発表しよう ・友達に分かりやすく説明できるように理由や自分の経験をいれよう ○本時の振り返りと次時の見通しをもつ。 ・自分の考えを発表することができそう ・交流で友達の考えを聞くのが楽しみ	・物語の心がひかれるポイントに付箋を貼って自分の考えを探す手立てにする。 ・心がひかれるポイントの3つの視点を3色の付箋で色分けする。赤「好きだな」、黄「おもしろい」、青「いいな」。 ・一人読みの時間を十分にとり、心がひかれるポイントを見つけられるようにする。 ・一人読みが難しい児童には読み聞かせや感想を引き出して支援する。 ・ワークシートの書き方を全体に明示して確認する。 ・ワークシートに書いたことをいかして交流するために、選んだ箇所のページと本文の書き出し、自分の考えを書き込むように指導する。 ・付箋を貼ったなかから伝えたい順にカ所ずつワークシートに記入する。
8	○一人一人の考えに違いがあることに気付こうとしている【感】 物語を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている【読オ】 ☆発言・ワークシート	○本時の学習を確認する。 ・自分の考えを発表しよう ・友達の考えを聞こう 同じ物語を読んだ友達と交流して一人一人の考えを知ろう ○同じ物語を読んだグループに分かれ、交流する。 ・『白い花びら』※※行はおもしろい（いいな、すきだな） ・『つり橋わたれ』※※行はおもしろい（いいな、すきだな） ・『海をかつとばせ』※※行はおもしろい（いいな、すきだな） ・『ゆうすげ村の小さな旅館』※※行はおもしろい（いいな、すきだな）	・学習してきたことをいかして本文を基に交流することを確認する。 ・児童が発表しようとしていることを踏まえて教師指定のグループで交流する。 ・ワークシートに頼らず、本文を示しながら友達に考えを発表するよう促す。 ・グループでの発表後、ワークシートに友達の考えのもとになった文に緑の付箋を貼る。 ・交流の振り返りでは友達との考えの違いなどについて書けるような用紙を用意する。 ・ふりかえり用紙には

		<p>○交流した振り返りを書き、全体で発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちが読んだ『白い花びら』では☒☒行がおもしろい(いいな、すきだな)ということ进行交流しました ・私たちが読んだ『つり橋わたれ』では☒☒行がおもしろい(いいな、すきだな)ということ进行交流しました ・私たちが読んだ『海をかつとばせ』では☒☒行がおもしろい(いいな、すきだな)ということ进行交流しました ・私たちが読んだ『ゆうすげ村の小さな旅館』では☒☒行がおもしろい(いいな、すきだな)ということ进行交流しました <p>○単元の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語を自分で読んで、本文から考えをもつことができた ・友達の考えを知って、同じところや違うところがあることに気付いた 	<p>○友達と同じところや違うところを見つける</p> <p>○感じ方が変わったところはあったか</p> <p>○新しく発見したところはあったかを視点として与える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の視点を掲示する。
--	--	---	---